

2. 石徹白の文化的景観

(1) 農村集落としての特徴

1. 「空が広い」開放的な景観

石徹白地区は白山南麓の、奥濃越の山々の中に開けた集落である。地区内は緩やかな斜面になっており、階段状に広がった耕作地の間に民家が点在している。敷地ごとに屋敷林を設けず、敷地境界に門塀や垣根などの工作物を設けない。

こうした集落の構成は、通常の農村集落とは異なる印象を与える。白山山麓という標高の高さとあいまって、見通しが良く、開放的で「空が広い」印象を与える。地区内には「ぼてん」と呼ばれる小高い丘が所々に見られ、地区内を見渡すことができる良好な視点場として「見通しの良さ」「空に広さ」を一層印象付ける。

また、こうした見通しの良さは、地区内に点在する様々な魅力的な景観要素（水路、石積み、民家等）を浮き立たせている。



中在所の風景（威徳寺を南から見る）



中在所の風景

2. 湯（ゆ）（＝水路）が張り巡る景観

石徹白では、水路が集落内を張り巡り、至るところから水音が聞こえる。

これらの水路は農業用水路として使われるものの他、洗い場や消雪に利用されるなど生活に密着し、集落内の住まいをネットワークしているものもある。特に降雪期には、水路は消雪のために必要不可欠な存在になっている。

水路網は、必ずしも道路沿いに張られているのではなく、庭先や住宅の敷地周り、農地の間など、様々なところに張り巡らされている。圃場整備により流路の変更があったものの、道路網とは別次元に、地形や水源の位置に従って形成されている水路網は、集落が形成されてきた過程を今に伝えるものであると考えられる。

現在でも、水路をたどっていくことで、在所ごとのまとまりを感じ取ることができる。

3. ちゅうじ（石積み）が広がる景観

圃場整備等によりその風景は減少してきているが、現在でも、敷地の土盛り部分や農地の畦（あぜ）、地区内の崖などに、石積みが見られる。農地や樹林地、周囲の山々など、石徹白地区は緑に包まれているが、その中にあって、石積みは、地形を明確に表現し、景観を引き締めている。

また、石積みには、単に土を固めた場合と比較し、雑草が茂りにくい、雨に強いといった利点があるようだ。

石徹白地区は、白山山麓の高い山々と渓谷のような川に囲まれた平地上の集落であるが、集落内にも多様な地形の変化が見られる。大きな高低差のある崖地では、石積みの擁壁が迫力のある景観を生み出している。これらの中には「～のちゅうじ、高ちゅうじ」という呼び名が付いた場所もあり、在所の入り口付近などから目立つものが多く、石徹白の集落構成を際立たせている。

一方、微妙な地形変化も多々ある。石積みは、微地形を区切り、耕作地や宅地、庭や通りの空間を形づくることにも利用されており、石徹白の景観に、きめ細やかな一面を添えている。



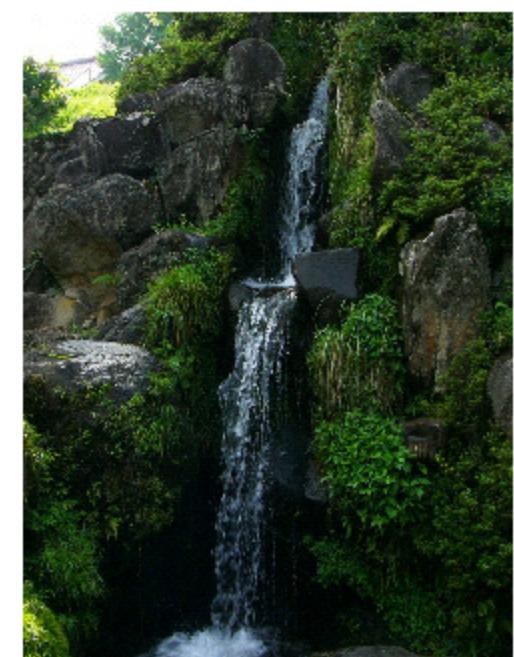
中在所を流れる水路



流路や水量を調整する「せぎ」



水路の落差を利用した「滝」 →
↓ 駐宅の前に設けられた消雪池



石積みの水路



石積みによって区切られた耕作地